

支援活動報告書

青森県青森市

はじめに、この度の東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。平成 23 年 5 月 15 日（日）から 5 月 23 日（月）の日程で宮城県多賀城市に災害支援（下水道管路の一次調査）に行ってきましたが、概要は以下のとおりです。

（１）支援先自治体及び状況

支援先自治体

宮城県多賀城市（仙塩流域下水道）

被災状況

多賀城市の被害状況は震度が最大で震度 5 強、津波の高さは仙台港で約 7m、市内で約 2m～4m、浸水面積は 662ha（多賀城市内の約 33.7%）と大きな被害を受け、平成 23 年 5 月 22 日現在の人的被害は市内での死者数 186 人、多賀城市民 103 人、行方不明者 1 名に上り、住家被害は全壊 1,484 世帯、大規模半壊 1,582 世帯、半壊 810 世帯など合計 5,356 世帯に被害が生じております。【多賀城市ホームページより抜粋】

下水道施設は仙塩流域下水道の仙塩浄化センターが津波で水没し、機能停止したため、応急処置として沈殿・塩素消毒の上河川に放流しており、復旧には約 2 年かかる見込みとのことです。4 月 20 日にメインポンプ 1 台が復旧し、5 月 16 日にさらにメインポンプ 2 台が復旧。残りのメインポンプ 1 台の復旧に向けて現在作業中とのことです。【宮城県土木部下水道課ホームページより抜粋】

（２）支援人数

【青森県青森市 4 名（土木 3 名 電気 1 名）】

所 属	職	氏 名
環境部 下水道整備課	技 師（土木）	工藤 一也
環境部 下水道整備課	技 師（土木）	齋藤 貴史
環境部 八重田浄化センター	技 師（土木）	野村 聖輝
環境部 下水道整備課	専任員（電気）	森 正則

(3) 支援期間

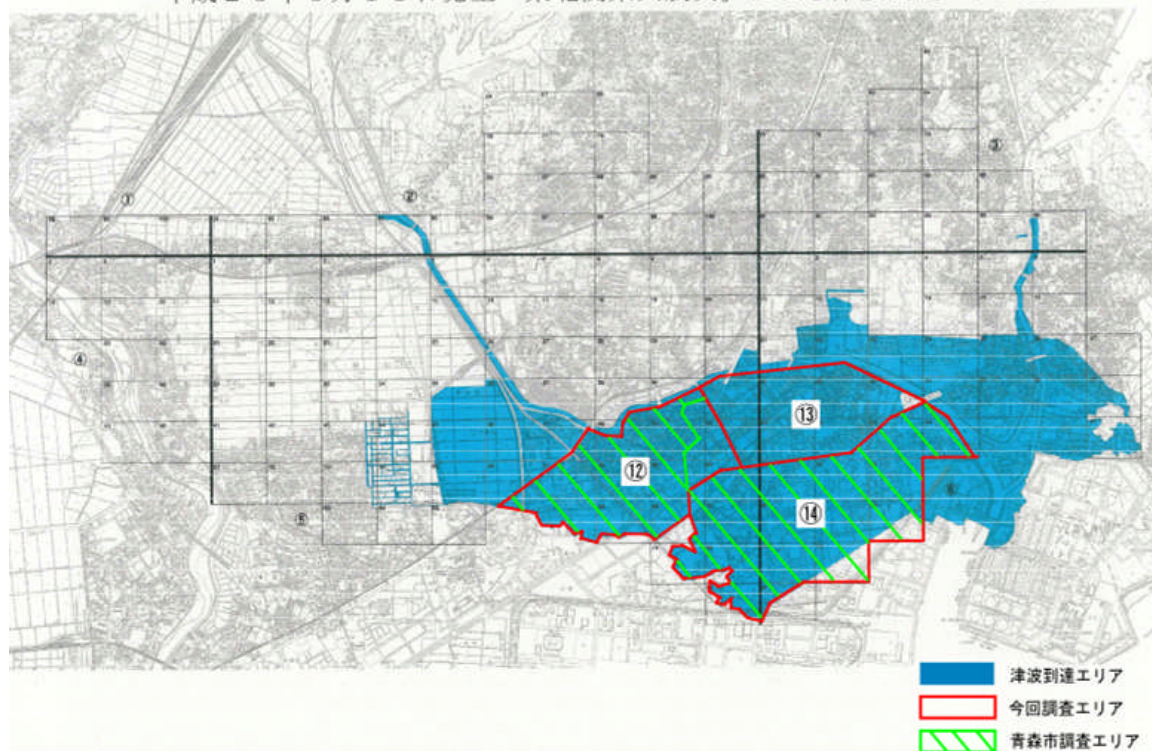
【調査行程】平成 23 年 5 月 15 日 (日) ~ 5 月 23 日 (月)

月 日	時 間	概 要
5 月 15 日	8 : 00 13 : 00	青森市出発 多賀城市到着
5 月 16 日	10 : 00 13 : 00	多賀城市役所集合・内容説明 管路一次調査
5 月 17 日 ~ 21 日	終日	管路一次調査
5 月 22 日	終日	資料作成、成果引渡し
5 月 23 日	13 : 00 17 : 00	多賀城市出発 青森市到着

(4) 一次調査の活動状況

今回の支援内容は、多賀城市内の内、津波被害を受け、道路上の瓦礫の撤去が済んだ地区における下水道管路の一次調査であり、北海道・東北ブロックから山形市・天童市の支援隊と本市の支援隊が選ばれました。5 月 16 日の多賀城市役所での顔合わせ、内容説明の後、担当エリアが決められ、今回の調査エリアであるエリア 12 から 14 のうち、山形市・天童市の支援隊がエリア 12 の一部とエリア 13 を、本市の支援隊がエリア 12 の一部とエリア 14 を担当することになりました。一次調査の内容は、エリア内の全マンホールを調査し、マンホール内部の異常(破損、ずれ、クラック等)の有無、マンホール内の滞水、土砂堆積の有無、路面との段差(マンホールの浮上、沈下)、周辺路面状況(陥没、隆起等)の有無を調査しました。

平成 23 年 3 月 11 日発生「東北関東大震災」による津波到達エリア図



(5) 下水道管渠の状況

5月16日から5月21日までの調査期間の間にエリア12及び14の面積約245ha、マンホール737箇所を調査した結果、マンホール内の滞水59箇所、マンホール内の土砂堆積13箇所、マンホール内の破損、ずれなどの異常35箇所、マンホール浮上136箇所、陥没などの路面異常19箇所でありました。

【調査結果】

地区	面積	調査 人孔数	滞水	土砂 堆積	人孔 異常	人孔 浮上	路面 異常
エリア12	75ha	386 個	10 箇所	0 箇所	15 箇所	35 箇所	11 箇所
エリア14	170ha	351 個	49 箇所	13 箇所	20 箇所	101 箇所	8 箇所
合計	245ha	737 個	59 箇所	13 箇所	35 箇所	136 箇所	19 箇所

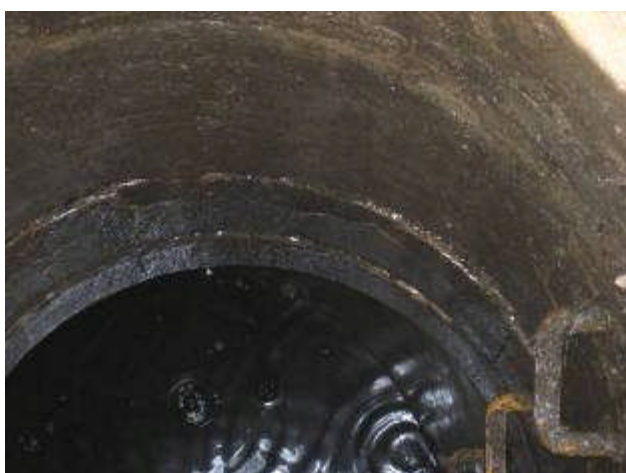
【被災状況写真】



【マンホール浮上、ずれ】



【道路陥没】



【マンホール内破損】



【マンホール内滞水】

【集合写真】



【多賀城市ホームページより】

（６）支援活動を通しての感想

調査期間は天候にも恵まれ、無事に割り当てられたエリアの調査を完了することができました。調査中、津波で流されたり破壊された工場、住家、車等の残骸や瓦礫の山を見て、今回の地震、特に津波の脅威をまざまざと見せつけられ、当日の状況は想像を絶するものであっただろうと胸が痛みました。

しかし、調査中、瓦礫となった町の公園で元気に遊ぶ子供たちの姿や被災した方々の力強い姿を見て、少しずつですが、それでも確実に復興へ向かって前に進んでいることを実感しました。

最後になりますが、この度の震災で大きな被害にあわれた多賀城市の一刻も早い復興を心から願うとともに、今回の本市の災害支援が微力ながら多賀城市民の皆様の通常の市民生活を取り戻す一助になれば幸いです。